

成人後の体格・脂質・高血圧など所謂生活習慣病
発生に関する効率的予測について
(小児期からの成人病予防に関する研究)

伊谷 昭幸

伊谷 医院

A. 研究目的

小・中学時に通常行われる身体計測にいくつかの検査を施行して置き、成人後の体格・脂質・高血圧など所謂生活習慣病の発生を効率的に予測する方法を探求する。

B. 研究方法

小・中学時に4年以上、身体計測、および空腹時の肝機能、血清脂質(TC, TG, HDL-C)、血糖、検尿(蛋白、糖)血圧などを継年検査し得た例(継年例と表現)および小・中学時1回受診の者(単年例)で19歳以上に達した者について夫々の項目について追跡した。継年例・単年例共男女別に小・中時の体格によつて3つに区分し継年例では著しい肥満を1Mと1F、バランスの良い体格を3Mと3F、そのどちらでもないものを2Mと2Fとし、単年例では継年例と同様S1M, S1F, S3M, S3F, S2M, S2Fとした。今回は1Mと3M、1Fと3Fを主として比較した。なお追跡例は継年例男子計69例女子61例、単年例男子計78例、女子計94例である。なお、1996年度までに本研究に参加したものは延べ10342名である。

C. 研究結果

体格=追跡時継年例の1Mおよび1Fでは100%著しい肥満で、3Mでは89.5%、3Fでは85.2%がバランスの良い体格を示していた。単年例では追跡時体格の変動無しは次のようであつて
S1M64.7%、S1F45%、S3M62.5%、S3F57.7%であつた。継年例と単年例の間で追跡時の体格の変動をFisherで検討すると、3MvsS3Mを除いて0.00032

—0.097005の確率で単年例の方が変動が大きい。この事は従来の多くの追跡報告の不確実さを思わせる。

脂質=自験例から小・中学時の各脂質の性別年齢別4分位値を求め、継年的分位パターンと追跡時の異常値例につき検討した。異常は男女共著しい肥満に多い。継年例ではTC=1Mでは追跡例30例中8例、1Fでは同15例中8例、3Mでは19例中1例、3Fでは27例中4例に異常値(≥ 220)が見られた。3Mを除いては第4分位連続か第4分位を含む例で追跡時に主として異常値が見られる。特に第4分位連続例では家族歴の有無にかかわらず全例異常値。

TG=1Mと1FについてはTCと同様の傾向をしめす。異常例は夫々30例中18例と15例中5例である。3Mと3Fではまったく異つて殆ど異常例を認めないし小・中学時で第4分位に達しなかつた例にも追跡時に異常値(≥ 150)を示す例があつた。

HDL-C=小・中学時第1分位連続パターンを示した例では全例追跡時に異常値(≤ 40)を示した。例外は1Mの[その他]の2例のみである。(単位はTC, TG, HDL-Cともmg/dl)

単年例=単年例では継年例に見たような傾向性は全くと言つて良いほど見られない。

D. 考察

体格については従来の数多くの報告に比し明確な結果が得られた。脂質についても分位パターンに依る追跡は成人血清脂質異常の発症は小児期からの肥満と関連し、調査した範囲では必ずしも遺伝のみに支配されるものではないように思うられる。この研究は学校での保健指導で成人期に対する明確な指導根拠を得たいと言う目的で行われているもので、その目的には1歩近ずいたと思われるが、追跡例数を更に増やして検討したい。次回には血圧と家族歴・生活歴について検討して見たい

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

A. 研究目的

小・中学時に通常行われる身体計測にいくつかの検査を施行して置き、成人後の体格・脂質・高血圧など所謂生活習慣病の発生を効率的に予測する方法を探求する。